



市川 清矩 (いちかわ きよつね)

河北町名誉町民 昭和 58 年 4 月 1 日顕彰

大正 2 年 (1913) 新庄町 (現新庄市) 生まれました。昭和 21 年 (1946) 9 月谷地町議会議員に初当選し、翌 22 年 4 月公職選挙法施行初の町長選挙に地域住民の推薦により立候補、見事当選を果たしました。敗戦直後の食糧事情、窮迫した社会情勢の中で、食糧増産、産業振興に努め数々の実績をあげました。

昭和 28 年 (1953) 9 月「町村合併促進法」が公布されるといち早く「河北地区合併促進協議会」を発足させ、昭和 29 年 10 月 1 日谷地町、北谷地村、西里村、溝延村を合併成立、新河北町が誕生し、河北町初代町長に当選就任しました。以来、連続 5 期 20 年の永きにわたり在職し、町政発展のため施策に取り組み、数々の実績をあげてきました。

昭和 30 年 (1955)、卓越した行政課題に対する認識と洞察力、指導力が認められ、山形県町村会長に推挙され就任。その間、幾多の団体の要職を務め、その発展に多大な貢献をされ、昭和 38 年には、全国町村会副会長に就任するや建設省、総理府、文部省等の数々の重要な審議会の委員を歴任し、国土開発、教育文化の向上に尽くしました。

また、僧籍においては宿用院、定林寺、両寺の住職を勤め、昭和 50 年 (1975) 曹洞宗宗議会議長に就任し、赤紫恩衣許可。昭和 53 年には、大本山永平寺顧問に就任しました。昭和 57 年、従五位勲四等旭日小綬賞を受賞しました。